



👑 おめでとうございます!
「オーライ!ニッポン大賞審査委員長賞」黒潮カツオ体験隊
「農林漁家民宿おかあさん100選」海生丸・明神多紀子さん

黒潮カツオ体験隊のメンバーの皆さん（農林漁家民宿おかあさん100選の明神多紀子さんを含みます）、いつも町のカツオ振興に多大なるお力を発揮していただきありがとうございます。今回の受賞はこれまでの皆さんの苦勞や心のこもったおもてなし、長年かけて培った地域との連携に対する評価の賜物です。本当におめでとうございます！今後ますますのご活躍を期待しています。（写真は2009年3月撮影）

**第7回オーライ!
ニッポン大賞審査委員長賞に黒潮カツオ体験隊**

このたび佐賀地区の黒潮カツオ体験隊が、農林水産省が行う第7回オーライ!ニッポン大賞「審査委員長賞」に輝きました。全国で108団体のエントリーの中、地域の主要資源であるカツオを活用した食文化の継承に加え、他の体験事業との連携などで地域の産業振興への貢献や取り組みの発展性が高く評価されました。「審査委員長賞」はオーライ!ニッポン大賞グランプリ（内閣総理大臣賞）に続いて5団体のみが選定された、大変貴重な賞です。

「黒潮カツオ体験隊」は、平成13年に旧佐賀町漁協女性部が中心となって、町内の農協や商工会女性部らとともに結成されたカツオのワラ焼きタタキづくり体験受け入れグループです。高知県下で1番の水揚げ量を誇るこのカツオの町で、水揚げされた新鮮なカツオを使い、昔ながらのカツオのワラ焼きタタキづくりを地域内外の方々に体験してもらおうと、現在はカツオふれあいセンター黒潮一番館を

拠点に活動を行っています。活動当初は建物もなく、旧佐賀漁港の選別広場や、屋外へ設置したテントで受け入れを行ったこともありましたが、限られた活動環境の中、それでもこの取り組みに賛同し地元の現役漁師や漁業を引退した方々もいっしょに活動が続けられ今に至ります。

本受賞を多くのみなさんが心から喜んでいいることと思います。本当に、おめでとうございます。ございました。

第3回農林漁家民宿おかあさん100選に「海生丸」明神多紀子さんが選ばれました!

農林水産省と観光省が実施する、農林漁家民宿おかあさん100選に、佐賀地区の漁家民宿「海生丸」の明神多紀子さんが選定されました。

農林漁家民宿おかあさん100選は、全国に拡大している農林漁家民宿の品質維持と向上や都市部へのイメージ戦略を図るため、平成19年度から3年間の計画で実施されており、第1回20人、第2回28人、今回52人、全国の農林漁家民宿を営む女性の中から選定基準を満

たす100人が選ばれています。高知県内では、農家民宿いちよの樹上田知子さん（梶原町）、農家民宿はこば、由辺客子さん（四万十町）が選定されており、海生丸の明神多紀子さんは県内で唯一、漁家民宿のおかあさん代表として選出されたことになりました。

海生丸は、平成18年に黒潮町で初めて開業された漁家民宿で、町内や幡多地域へ訪れた観光客やイベント参加者、大手の進学塾生の子どもたちや子どもプロジェクトの小学生らに利用いただいています。海生丸のこだわりは、漁家の暮らしや伝統、食文化を体感してもらうこと。農林漁家民宿おかあさん100選への認定はそのこだわりに加え、地域の魅力を存分に満喫してもらうための明神さんの細やかな気配りと行動力が、選定理由のひとつとなったことは言うまでもありません。平成21年度には同じ佐賀地区に7軒の農林漁家民宿が開業しました。全8軒で、連携した農林漁家民宿の運営に尽力を注いでくださっています。

今後も、より一層の発展と振興が期待される黒潮町の農林漁家民宿に目が離せません。

※町内の農林漁家民宿は「広報くろしおNo.412009年(平成21年)8月」でも紹介しています。ご一読ください。

第20回あかつき賞受賞

3月13日、大方あかつき館で第20回あかつき賞の表彰式が行われました。

あかつき賞は、黒潮町出身である上林暁氏の業績を顕彰し、町の教育文化の発展と向上を図ろうと結成された上林暁顕彰会（平成元年結成・会長植田馨）が、活動の一環として平成2年から実施しています。町内小中学校の児童文集「黒潮」の中から作文を対象に、上林暁顕彰会や学校関係者らによって、各学年1作品ずつの優秀作品が選ばれ、あかつき賞を授与されるものです。

表彰式では、植田会長から「上林暁先生は一生のうち100冊の本を出版した、昭和時代に活躍した作家です。脳溢血という大病を患い、18年間、寝たきりでの闘病生活の中、それでも随筆や小説を書き続けました。亡くなる4日前まで片手で書いたという絶筆作品も残っています。彼は本当に一度決めたことをやり抜く、頑張り抜く人でした。みなさん大きな夢を持ってください。そして、それを達成するために自分の決めたことは嫌なことがあっても頑張り

続けてほしい。このあかつき賞には、そんな上林先生のメッセージが込められたものです。今日の受賞を、誇りを持ってこれからも作文や日記、詩を書き続けてください。たくさん本を読んでください」と、子どもたちにお祝いの言葉がかけられました。

受賞した子どもたちは、家族や学校の先生たちが見守る中、終始緊張した面持ちで、この貴重な受賞を光栄に誇りに感じている様子でした。



あかつき賞受賞作品集は大方図書館でご覧になれます。

（小1）藤川陽成・（小2）上岡みこと・（小3）北川文太・（小4）松下健太・（小5）瀧本太吾・（小6）植田大輝・（中3）毛利萌乃花

第10回感想画コンクール受賞作品を紹介します

大方図書館では、絵本や本を見て・読んで・聞いてイメージして描いた絵画を募集する「感想画コンクール」を毎年実施しています。

応募作品の中から、優秀な作品を選出し、クジラ大賞（小学校未満・各学年から1名）・イルカ賞（小学校未満から4名・各学年から3名）・図書館長特別賞（応募者から1名）が表彰されます。

今年は、281人（303作品）の応募者の中から30人が受賞し、2月21日には、大方あかつき館で表彰式が行われました。



第10回感想画コンクール受賞者のみなさんおめでとうございます！

クジラ大賞

小学校未満の部



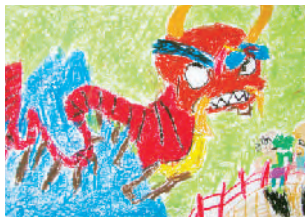
篠田 侑希くん
「とらっく とらっくとらっく」

1年生の部



松原 隼矢くん
「うみキリン」

2年生の部



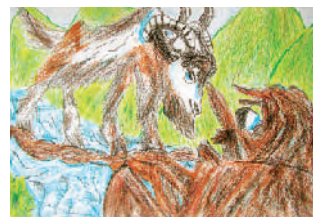
松井 響くん
「おとなもブルブルようかい」

3年生の部



畠中 愛未さん
「かわいいこねこをもらってください」

4年生の部



野村 朋矢くん
「三びきのやぎのがらがらどん」

5年生の部



植村 花帆さん
「半日村」

6年生の部



森田 ひかるさん
「雪渡り」

【イルカ賞】 楠目羽菜さん・もりしづきさん・山崎未怜さん・土居一樹くん・松井美優さん・北山征那くん・吉良奈央子さん・米津斗羽くん・尾崎萌花さん・藤原功丞くん・宮地海斗くん・新田祥季さん・小橋みなみさん・小島尚季くん・矢野詩緒莉さん・土居雄太郎くん・廣瀬睦季さん・高田若奈さん・松永凌成くん・國友涼くん・森光司郎くん・藤本奈々瀬さん

【図書館長特別賞】 池勇垂くん

鹿島神社大祭が行われました

佐賀地区で鹿島神社大祭が行われました。漁師の大漁と航海安全を願い、人々の幸せと健康を祈るこの鹿島神社大祭は、例年3月3日に行われていたところを昨年から、地域内外から来場が得意やすいようにと、毎年3月第1日曜日に変更され、今年は3月7日の開催となりました。

当日はあいにくの小雨でしたが、集まった町内の中学生から40代までの男女が担ぐ「男みこし」と「女みこし」、子どもたちの鼓踊りと団扇踊りが奉納されました。夏頃から毎晩練習を重ねてきた保育園児の鼓踊りと、昨年復活を果たした小学生の団扇踊りの華やかで勇壮な舞いに、訪れた観客たちは終始惹きつけられている様子でした。



小黒ノ川地区「文殊桜」

今年も、3月中頃を過ぎると、町内各地では桜が開花し、私たちに春の訪れを知らせてくれました。

黒潮町では、小黒ノ川地区にある「文殊桜」が毎年一番早く開花を迎えます。



文殊桜は、同地区の文殊堂の傍に立ち、花びらは少し小さく鮮やかな濃いピンク色をしていて、毎年2月末頃から開花を迎えるとても特徴のある山桜です。「文殊桜」という愛称で、文殊堂と同様に小黒ノ川地区のシンボルでもあります。長年地域に親しまれています。

3月に入ると、早くもその小さな花びらは、はらはらと可憐に舞い散り始めていました。この季節には珍しく、見

る者の目を奪うほどの色と姿をした文殊桜をカメラにおさめようと、国道傍に車を停めて立ち寄る方々の姿を度々見かけます。

文殊桜は、明治の頃に、台湾に樟脳を作りに出稼ぎに行った地元の方が、苗木を持ち帰り定植した台湾桜と山桜が自然交配し、それが自生して育ったものではないかと言われています。

文殊堂の敷地以外の山際にも、同じように濃いピンクの山桜が点在しています。

※「文殊堂」は、広報くろしお No.46 1月号3ページ特集記事で紹介していますので、そちらもどうぞご覧ください。



土佐くろしお鉄道佐賀駅から高知市方面へ約8キロ先にある集落が小黒ノ川地区です。

黒潮町スポーツ賞受賞、おめでとうございます！

黒潮町では、町の体育スポーツの普及や振興に、顕著な功績をあげた個人や団体に対して黒潮町スポーツ賞を授与しています。（黒潮町体育会主催）

3月12日、第4回黒潮町スポーツ表彰式が大方あかつき館で行われ、個人の一部で13人、団体の部で4団体の受賞者の方々へ表彰状と記念品が贈呈されました。

◆水泳
林 崇さん（入野）

【団体の部】

◆サッカー
大方中学校サッカー部

◆グラウンド・ゴルフ
黒潮町グラウンド・ゴルフ愛好会

◆バレーボール
大方

◆陸上競技
黒潮町駅伝チームAチーム

第4回黒潮町スポーツ賞受賞者 【個人の一部】

- ◆陸上競技
 - 浜村ひかりさん（出口）
 - 弘瀬 将利さん（入野）
 - 松井 芽生さん（浮鞭）
 - 杉本 紗帆さん（入野）
 - 濱田 有香さん（田野浦）
 - 森田 真伍さん（佐賀）
 - 田邊 有彦さん（入野）
 - 徳廣 恵也さん（入野）
 - 柿内 剣児さん（入野）
- ◆弓道
 - 明神 萌奈さん（浮鞭）
- ◆グラウンド・ゴルフ
 - 池田 章夫さん（入野）
 - 酒井 隆昌さん（入野）



受賞者の皆さん、おめでとうございます。今後ますますのご活躍を期待しています！



大方中央保育所の子どもたちが卒園記念植樹

2月24日、大方中央保育所で卒園を迎える子どもたち34人の記念植樹が入野松原キャンプ場（入野字横浜）付近の砂地（約171平方メートル）で行われました。

当日は、四万十森林管理署や幡東森林組合、幡多土木事務所、黒潮町商工会、JA高知はた大方支所、NPO砂浜美術館など地域内外の団体の方々もいっしょに、合計200本の松の苗木を植樹しました。子どもたちは、周囲の大人たちに植え方を教わりながら約30分の植樹作業を終えると、さっそく苗に水やりをしたり、「簡単やった!」「20本も植えたあ」「おもしろかった!」と疲れた様子もなく元気な声を響かせていました。

入野松原保存会 名勝入野松原を守り伝える

入野松原保存会副会長文野勲さんは「みんなの成長と同じように松の木も大きくなって、今から20年も経つと、立派な大木になります。みんなも元気にこの松の木に負けなように大きくなって、大人になったらこの植樹のことを思い出してほしい。どれくらい大きくなったか見に来てください」と子どもたちに話していました。

入野海岸・入野松原は歴史ある白砂青松・風光明媚の絶勝の地として知られ、黒潮町のシンボルのひとつとも言えます。

特に入野松原は、1928年（昭和3年）2月17日内閣府「名勝」指定を受けた由来伝説に、「天正中長宗我部元親の重臣谷中兵衛忠澄が中村城代であった時罪人に課して植えしめたものと伝う」と記されており、また「土佐物語」の中で幡多巡廻の帰途に立ち寄った長宗我部元親が「誠に無双の景地かな。心あらん人に見せばやといひし。…」と松原を賞した記述や、「西浦

廻見日記」にも登場するなど、歴史ある景勝地です。大方町史に書かれた記述によれば、その起源は室町時代にもさかのぼることが推測され、先人らによる保存の歴史も紹介されています。

黒潮町の誇りうるその入野松原で、近年では昭和50年頃から、マツクイ虫による被害が発生し、現在も続いています。また、松原への心ない不法投棄による環境破壊も問題になっていました。

そんな中、古き先人の思いを受け継ぎ、入野松原を守り育て後世へ伝え残すことを目的として、町内有志や上川口浦地区から下田の口地区、旧大方町の組織する「入野松原保存会」が平成元年に発足され、植樹活動を中心として、地域の方々と一体となった松原の管理や海岸清掃などの活動が続けられています。



幡東森林組合「林間学校」

2月25日、第21回林間学校が蜷川地区（字コトク山）で開かれました。（幡東森林組合主催）

この林間学校は、全国一の森林率であるこの高知県内で、土壌に水を蓄え、山の崩壊を防止し、二酸化炭素を吸収して地球温暖化防止などの重要な役割を担う森林の大切さや、その役割を十分に発揮できるための森づくりの大切さを知ってもらふことや、林業への理解や興味を深めてもらうこと、平成元年から町内の学校児童生徒を対象に行われている植樹体験で、今年で21回目を迎えました。

必要となったことから、現在は小学生へと対象を変更しています。今年は佐賀小学校5年生が、総合的な学習の時間と社会科授業の中で参加していました。

幡東森林組合のスタッフに植樹の注意点を習った子どもたち25人は6班に分かれ、ツルハシを使って自分で穴を掘り合計200本のヒノキの苗木を植樹しました。



同組合が実際に作業を行う造林植栽地とあって、植栽地は斜面でしかも自生木の根がはびこる固い土壌でしたが、みんな真剣な表情で一生懸命作業を行っていました。お昼前に作業を終え、改めて周囲一面の緑にホッとした様子で、あちこちへの散策や気に入った木片や木の葉などを収集して自然との遊びを楽しんでいるようでした。宮川幸先生は「実際目で見て体験することで、自然の大切さをより深められたのではないかと思います。広々とした山の上で、きれいな空気の中で景色を楽しみ思い切り体を動かすことも、子どもたちは存分に楽しんでいると思います」と話してくれました。